

超人気FP!

ABC ネットニュース

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2019年1月15日

今月のトピックス 「株式市場はいばらの道が待つ？」

新年、明けましておめでとうございます。今年もマクロ、ミクロなどさまざまな視点から皆様に有益なお金周りの情報をお届けできるように頑張らせていただきます。何卒、よろしくお願いいたします。

2019年は「改元」が行われることから、明るい（希望ある）1年と期待したいところですが、サブライズでもない限り良い1年となりにくい年となりそうです。ご存じの通り、日米のトップは株価を非常に気にしています。株価を政権の通信簿と考えれば、株価が上昇していれば信任されていると捉えている＝次の選挙に勝てる（アピールできる）と考えているからです。その株価、2018年はほぼ年間安で終わりました。アベノミクスが始まってから初めての年間安となったわけですが、日経平均株価が12月に年間安値を付けた年は戦後10回あり、うち8回は翌年の日経平均株価は下落しているのです。TOPIX（東証株価指数）も日経平均株価同様12月に年間安値を付けたのですが、同指数が過去12月に安値を付けたのは12回あり、うち9回は翌年の騰落率はマイナスとなっているのです。12月の年間安値は翌年の株価が波乱含みの展開となることを示唆していると考えられるのです。

ただ、干支からは異なった視点が見えてきます。2019年の干支は「亥（いのしし）」ですが、戦後亥年の日経平均株価の勝率は4勝1敗。平均上昇率は年間16.17%と4番目の高さとなっています。さらに、TOPIXが12月に年間安値を付けた翌年、上昇しているのは3回（年）ありますが、うち1回が亥年、しかも3回の中で最も上昇率が高かったのです（1971年）。また、安倍政権は選挙を行う度に株価を上昇させています。2019年は春に統一地方選、夏に参議院選挙が予定されていることから、選挙＝株高というジンクスは心強いと言えるかもしれません。予断ですが、筆者は夏の参議院選挙は「衆参ダブル」を予測しています。通常国会の終盤に「消費税の再度延期」あたりを大義名分として解散・総選挙に打って出るのではないかと考えています。

日本の株式市場は米国株の影響を受けやすいのですが、その米国株、大統領選挙の前年は株価が上昇するというジンクスがあります。共和党の大統領の時は上昇が顕著であることを考えると、案外トランプ大統領は2020年の大統領選に向けて、振り上げた拳を下げるような穏健路線に変更というサブライズがあるかもしれません。いずれにしても、2019年の株式市場は乱高下が起こりやすいと考えられ、状況次第で上にも、下にもブレ幅が大きくなる1年となりそうです。怖いのは、株価が下がり実体経済が悪化することです。株価は景気の「先行指標」と言われていますから……。